

- 城のある都市復活 -

福岡城たより

2010年10月
NO.27



福岡城本丸模型：筑前城郭研究会 小田原早嗣氏製作

美しい海中公園瀬戸内をすぎるとふるさと福岡板付である。当時は新幹線も未着で空港の西側は勿論、ビルの姿もなかなかつた。多くの日本の都市は昭和30年代からバブル期にかけて、築城ブームが始まつた。福岡城もそのうち再建されると信じて止まない。市民の心を1つにするシンボルとして福岡城跡の整備活用を期待しています。

美しい海中公園瀬戸内をすぎるとふるさと福岡板付である。当時は新幹線も未着で空港の西側は勿論、ビルの姿もなかなかつた。多くの日本の都市は昭和30年代からバブル期にかけて、築城ブームが始まつた。福岡城もそのうち再建されると信じて止まない。市民の心を1つにするシンボルとして福岡城跡の整備活用を期待しています。

美しい海中公園瀬戸内をすぎるとふるさと福岡板付である。当時は新幹線も未着で空港の西側は勿論、ビルの姿もなかなかつた。多くの日本の都市は昭和30年代からバブル期にかけて、築城ブームが始まつた。福岡城もそのうち再建されると信じて止まない。市民の心を1つにするシンボルとして福岡城跡の整備活用を期待しています。

海外から日本を目的地とする航空機のパイロットにとって富士山は雲海に浮かぶ安全燈台として希望を与えてくれると共に着陸準備を始める予鈴となる。

国内線で羽田から出発、大阪伊丹経由、福岡板付の場合、空路総4号

機のパイロットにとって富士山は雲

海に浮かぶ安全燈台として希望を与

えてくれると共に着陸準備を始める予鈴となる。

海外から日本を目的地とする航空

機のパイロットにとって富士山は雲

海に浮かぶ安全燈台として希望を与

えてくれると共に着陸準備を始める予鈴となる。

進めよう

NPO法人鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

理事 津田 慶一



一夜城について

池田 和正

(読売新聞社)

一夜城とは、その名の通り一夜で、あるいはごく短期間で築かれた城のことである。豊臣秀吉が築いた3つの城が知られている。すなわち墨俣城(岐阜県大垣市)、石垣山城(神奈川県小田原市)、大隈城(福岡県嘉麻市)である。

永禄年間の墨俣築城は、秀吉の出世譚としても有名である。

織田信長は美濃斎藤攻めにあたり、木曾川、長良川、揖斐川の中洲に砦を築こうとするが、斎藤勢によつて再三阻止される。そこで木下藤吉郎が抜擢された。かれは奇計で敵の攻撃を封じたうえで、在地の土豪、蜂須賀小六らの協力を得て、上流から竹木を流して部材を調達、組み立てて白い紙を貼り、これに矢狭間などを描かせて、一夜にして普請を終えた。美濃勢は大いに驚き、兵を引き上げたという。

この話、出典は『絵本太閤記』といふ。江戸時代後期の読本で、もとより史実ではない。ところが、この話が後世の書物に繰り返し孫引きされることによって、史実として扱われるようになってしまった。

石垣山城は天正18年(1590)の小田原北条攻めの際、その本陣として築かれたものだ。江戸時代初期の『小田原記』は、櫓に杉原紙を張つ

て白壁にするなど節約し、4月1日の一夜で城を完成させた後に、目隠しとなつて樹木を伐採した。突如出現した城に、北条側は、「こは彼が知られる。すなわち墨俣城(岐阜県大垣市)、石垣山城(神奈川県小田原市)、大隈城(福岡県嘉麻市)」である。

実際の石垣山城は総石垣の本格的な近世城郭だが、これを秀吉は4万人を動員して、6月末までのおよそ80日で完成させた。見せかけの一夜城よりも驚かされる史実である。

大隈城(益富城)は、天正15年(1587)の秋月攻めの際に築かれたもので、貝原益軒『黒田家譜』(1688)は、「一夜の中に見駒ぬ白壁出来、腰板を打たれば、見るもの驚きて神變のおもひをなせり。是ハ敵の目を驚かし勇氣をくじかんために、播磨杉原の紙を以て、夜中に城の壁をはらせ、民屋の戸板を集めて墨をぬり腰板にさせ給ひけるなり」と伝えている。秋月種実は戦意を喪失して降伏したという。

ただ、秀吉の従軍記『九州御動座記』や、フロイス『日本史』には一夜城の記述はなく、日程的にも無理がある。『小田原記』となると、『黒



一夜城(南島原市)

田家譜
編纂にあ
たり「一
事も聞見
する事な
き無稽の
事を記さ

ず」と書いた益軒である。当時すでにそのような伝承があつたのだろうか。

さて、21世紀になつて各地で一夜城の築城が相次いでいる。件の益富城をはじめ、黒崎城、原城や鳥取城、佐和山城など。工事用の足場などに、櫛や屏を描いたベニヤ板や布を貼つて、夜間にはライトアップする。期間中には城内で様々なイベントが催される。

史料的裏付けがないデザインがほとんどであり、城郭マニアからは評判は高くないが、これだけ各地で流行しているということは、それだけ観光面で効果があるということなのだろう。やはり市民に往時の威容を可視化させることのインパクトは大きい。

また本格的な復元でない一夜城ゆえのメリットもある。費用が安上がりなのはもちろん、市民自らが築城にボランティアで携わることができること、またイベント終了後に解体し翌年また造り直すことによって、常に関心を持ち続けることができる。それは将来の本格的な復元につながることになるのかもしれない。

平成22年9月20日(敬老の日)

(甦れ! 福岡城 より集録)



益富城の一夜城(嘉麻市)

郷土の歴史講演会

ふくおかの歴史を見直そう!
甦れ! 「福岡城」と「本丸御殿」

日 時

平成二十二年十一月二十九日(月)

受付開始 十三時より
講演 十三時半～十六時半

場所 福岡市福祉プラザ

福岡市中央区赤坂一一一六一五
○九二一七三一九二九

一階「ふくふくホール」

演題 一、今なぜ福岡城天守閣なのか?

NPO福岡市民の会 理事長 石井 幸孝

二、福岡城は岩盤の城!

NPO福岡市民の会 事務局 野田 弘信

三、模型・福岡城本丸御殿と南の丸 完成す!

福岡市民の会の会員 築前城郭研究会 会長 小田原早嗣 氏

参加費

福岡市民の会の会員 無料

人員 一般 三百円 事前申込み(先着二四〇名まで)
福岡市民の会の会員

参加申込み

福岡市民の会

TEL 092-716-8238
FAX 092-716-8254
FAX 092-566-6134

「名前」と「電話番号」を電話又はFAXにて
(留守電可)



復元「下の橋御門」

福岡城探訪

ぎやつと殿様

十代黒田齊清

藤 金之助



十代 黒田 齊清

(福岡市博物館所蔵)

斉隆の逝去は六十余日秘されたが、そのわけは側室が懷妊中で、その出生を待つたためといわれている。藩は八月二十四日になつて、幕府に對し斉隆の死去を報告するとともに、嫡子松次郎（齊清）の襲封を届け出た。生まれたばかりの赤ん坊を福岡藩といふ大藩の藩主として幕府が特別に認めたのは斉清が斉隆の実子で、徳川御三家の一橋家の外孫であつたからである。

寛政七年（一七九五年）十月六日、福岡藩十代藩主となつた齊清であるが、実は秋月藩主黒田長叙の三男で二月六日に生まれたばかりの秀五郎であつたという。側室に生まれた子が姫であつたので、斉隆の側近井手勘七がひそかに秋月に連れて行き、代わりに赤ん坊の秀五郎を懷に抱いて福岡に連れてきたというのである。

井手家は播磨以来の黒田の家臣であ

り、勘七は“幼にして異材あり”といわれた秀才で、重臣の久野外記に抜擢され、江戸藩邸で幼君斉隆の保育係をつとめ、斉隆の信任も厚く、筑前入国にも付き添つていた。この赤ん坊取りがえのことは藩内では“易儲事件”と呼ばれている。「易」は変える、「儲」は、あとつきのことを行う。

勿論、幕府には斉隆の実子として届けているので易儲のことは極秘で、公式の記録には無いが傍証となる言い伝えは無数にあるという。斉清が成人するまで秋月藩主長叙が長らく後見役をつとめ、長崎警備の代藩をしたことなどもあつて秋月藩では一般に事実として語り伝えられていたという。

いずれにしても斉清は生まれてすぐ藩主になつたので「ぎやつと殿様」といわれた。“おぎやあ”と生まれるともう殿様だつたということである。

寛政十二年（一八〇〇年）斉清、六歳の時初めて江戸参府、以後文化八年（一八二一年）に帰国するまで江戸に住み、井手勘七の保育をうけながら次第に学問好きの開明君主に成長してゆく。幕末の福岡藩に近代的な学問を開花させる基礎はこの時、作られてゆく。

文化、文政年間は江戸文化の爛熟期、町人文化の花開いた時期である。博多でも櫛田神社境内に「櫛田文庫」が文政元年（一八一八年）に開設、博多の町の人々に公開され、近代的図書館として歓迎された。「ボストン市立図書館」よりも三十四年も早い世界最初の公立図書館であった。ただ国学、神道の振興を強調しすぎたため、仏教界からクレームがつき、藩の指示で文政五年、閉鎖された。

文政六年、鎖国日本に近代科学の種をまくことになる人物が長崎にやってくる。長崎オランダ商館に赴任してきたドイツ人の医師シーボルトである。彼は翌年、長崎郊外鳴滝に塾を開いて日本人に医学、博物学などを教えるが、その門下生に福岡藩の武谷元立や百武万里なども学んでいる。

黒田齊清が長崎御番巡視の折、出島オランダ館でシーボルトに会つたのは文政十一年（一八二八年）のことである。この時、養子の長溥も同伴していた。齊清は本草学（動、植、鉱物学）に造詣が深かつたのでシーボルトとの対談は学問的に相当突つ込んだもので、シーボルトを驚かせた。齊清の『本草啓蒙遺』等の著書にはシーボルトの助言があつたという。

齊清は静かな学究肌の人であつたが二十代からの眼病が進み、長崎御番もつとめられないようになり、天保五年（一八三四年）四十歳で隠居し、養子の長溥に藩主を譲つた。生まれると同時に殿様になつたので治世は四十年と二回目以降は一般の方の傍聴もあり、多くの方の参加がありました。

この勉強会の内容の一部は、福岡市民の会のホームページに掲載していますので、ぜひご覧下さい。

また、勉強会の中間報告として10月2日に中央区市民センターホールにて市民フォーラム「徹底討論! 脱る福岡城・福岡のシンボルになるか」を開催しました。官民共働勉強会で多くの方の意識が高まりつつある今、皆様の声・意見をホームページなどでお聞かせ下さい。

福岡城活用の官民共働勉強会

【官民共働勉強会コアメンバー】

*福岡城市民の会・石井理事長

*福岡商工会議所・福岡青年会議所

*ホーリースタウン・西日本鉄道株式会社

*財團法人福岡アジア都市研究所

*福岡観光コンベンションビューロー

*九州電力株式会社

*経済振興局 *教育委員会

第一回目 6月11日 赤煉瓦文化館

勉強会の進め方を協議

講演と意見交換会を併用し、議論すべき問題意識を高める。

第二回目 7月14日 赤煉瓦文化館

「劇的遺産活用の日々」

砂田光紀先生による講演

福岡城下町の活用策をさぐる・福岡城の活用

第三回目 8月6日 福岡市立中央市民センター

「都市観光とその経済効果（福岡は観光都市か？）」福井康子先生

福岡城の整備・活用とその経済効果

第四回目 8月26日 福岡市交通局

「熊本城の復元整備について」

北野隆先生による講演

福岡城の復元整備について

第五回目 9月30日 赤煉瓦文化館（予定）

「基金の構想と戦略について」

石井理事長

10月2日市民フォーラムを開催、徹底討議の予定

黒田如水・長政親子の戦跡を訪ねる！ 黒田家、九州最初の拠点、豊前中津城をたずねる

日 時 平成22年7月17日(土) 8:30~19:00

－中津城（黒田時代）の概要－

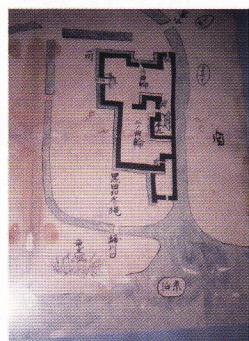
1587(天正15)年、豊臣秀吉の九州平定に伴い、黒田孝高(如水)は豊前六郡12万3千石の領主として入国した。

翌年、丸山城を修補し中津城の築城にとりかかった。現在中津市民俗資料館に残されている「黒田如水縄張図」と伝えられる絵図には、本丸・二ノ曲輪・三ノ曲輪とともに「町」も記されている。

その後、豊臣秀吉の朝鮮出兵(文禄・慶長の役)、秀吉没後の関ヶ原の戦いに大功を立て、1600(慶長5)年12月筑前国に入国。黒田家の豊前統治は14年の短い期間であったが、数々の業績を残し現在でも「如水」という地名まで残している。

当日中津城内では、豊前中津黒田武士顕彰会の皆さんから「黒田如水

を大河ドラマへ」と大歓迎され、あらためて中津に於ける黒田如水の人気が高い事にビックリした。



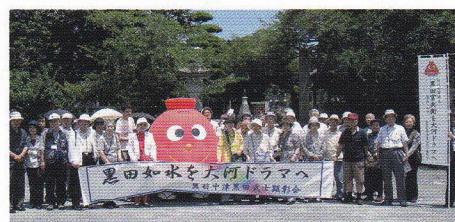
黒田如水縄張図



黒田如水築城、本丸の石垣



黒田と細川の石垣の境



中津城訪問記念写真(あかんべ～さんと共に)

－歴史探訪のコース－

① 一ツ戸城：城主・中間統胤(中津市耶馬渓)

九州で一番最初に黒田如水の傘下になり、豊前国平定に協力し黒田姓を受けられ、黒田統胤と称す。筑前入国後は、六端城の一つ小石原城の城主として抜擢された。

② 平田城：城主・栗山備後利安(中津市耶馬渓)

豊前耶馬渓谷の要の城であり、黒田氏一番の重臣を置く。

黒田氏が筑前入国後に福岡藩の重臣となった栗山大膳は、この城で生まれ少年期をすごした。

③ 如水小学校／郵便局(中津市上如水)

九州の関ヶ原合戦の際、黒田如水が兵8千の訓練と出陣式を行った場所。土地の人々が如水を慕って「如水原」

と言うようになり、現在「上如水」の地名となる。

④ 城井谷／大平城

(築城町寒田)

豊前国で最後まで豊臣秀吉に抵抗を続けた宇都宮(城井)氏の居城。



城井谷 天徳禪寺

⑤ 天徳禪寺(築城町本庄)

宇都宮(城井)氏の菩提寺。当時の当主17代長甫・18代鎮房・19代朝房の墓と位牌が安置されている。

(記 福岡城市民の会事務局 野田弘信)

編集・発行：
鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所：
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7階

TEL:092-716-8238
FAX:092-716-8254

HPアドレス：
<http://fukuokajokorokan.npgo.jp/>
E-mail:
fukuokajo@tos.bbiq.jp

デザイン・印刷：S&Mトラスト株式会社

編集後記

今夏の猛暑、皆様方には無事のり切られたでしょうか？

来年3月12日、いよいよ九州新幹線鹿児島ルートが開通します。

観光立国を目指して、福岡の観光に大いに力を入れるべき時期到来です。

当会も福岡市と福岡城の再現のための官民共働勉強会や市民フォーラムを実施し、天下分け目の戦いに挑んでおります。

福岡城・市民の会の翼が風に乗って羽ばたけますよう皆様方の応援をお願い申しあげます。

また、ホームページへのメッセージなどしご投稿ください。

福岡城市民の会

検索

| 新日本製鉄㈱ | 一般会員(団体) | 野田弘信 | 正会員(個人) | 白林井東 | 阿比留石上郷 | 一般会員(個人) | 新規会員名簿 |
|--------|----------|------|---------|-------|--------|----------|----------------|
| | | | | 靖弘 | 愛克啓 | 子子子三子 | (平成22年8月31日現在) |
| | | | | 高菅鍬川木 | 野野原口村 | 彌範伸 | |
| | | | | 守穂武正 | 稔実生子子 | 福外白川 | |
| | | | | 義也彦敏 | 山山石畠 | 守穂武正 | |